



(令和元年第2号)

○サンエールに講演を聴きに行ってきました。隈元氏はバスの乗り間違えて残念不参加でした。森氏と永野さん3名で聴いて来ました。

○2月5日

テーマに即した最高の講師陣・論客でしょう。

ルビのある歴史物語

このようなものが幼き時代に歴史に興味を抱かせ、読書の習慣を生み出します受験偏重教育は読書習慣を育てているのでしょうか？

隆盛と久光

明治になって全国的に士族に最も人気があったのは隆盛、次いで久光、大久保や岩倉は、その足元にも及ばなかったという。

西山 和宏

○薩摩は伝統的に学問好き、読書好きの土地柄です藩政時代の赤穂義士輪読会はその象徴的なものです。

幕末に奔走した者は読書人です。

吉田松陰に代表されるように長州にも読書の習慣があったようです。

戦前の優れた人、偉い人は旧藩時代に読書習慣があった藩だそうです。

徳川幕府の天領には読書習慣がなかった

そうです。そのため幕末の幕府には人材がいないと勝海舟に嘆かれました。

明治維新になって兵学校(私学校)を設立したのは児島だけではない。

徳川家は静岡藩として静岡に行かされたとき沼津兵学校を設立し、元旗本や元御家人の子弟を入学させた。形ばかりの入学試験が行われた井伊掃部頭(かもんのかみ)、酒井雅楽頭(うたのかみ)の文字を示して、どう読むかと質問したら井伊ホウキアタマ、酒井ガラクガシラと答えた。

この程度の官名が当時の旗本・御家人にはほとんど読めなかったと、司馬遼太郎が言っている。

江戸は、それほど享乐的な都市であった。

西山 和宏

○おもしろいね。やはり博学

ケイジ

西郷の功績たどる 南洲顕彰館100万人でシンポ




来館者100万人を達成した鹿児島市の「西郷南洲顕彰館」(徳永和喜館長)の記念シンポジウムが1日、同市のサンエールかごしまで開かれた。西郷隆盛の功績や思想についての話

基調講演では、出水市出身の歴史作家、桐野作人さんが「慶応3年の西郷隆盛」と題し、大政奉還をめぐる動きについて話した。薩摩藩の権力者・島津久光に氣を使いながらも、存在感を高めていった西郷が実現に導いたことなどを解説。「江城無血開城は、西郷の胆力があつたから成功した」と話した。

また「維新を創った男西郷隆盛の実像」などの著書がある研究者の粒山樹さん(大阪市)は、険悪なイメージのある西郷と久光の思想の類似点を指摘。「明治政府が進めた急速な西洋化に、共通して異議を唱えていた」とし、「二人が手を組めなかったのはある意味、鹿児島、日本の不幸だったと思う」と語った。

桐野、粒山両氏と志學館大学の原口泉教授、徳永館長によるパネル討論や来館100万人目になった紫原小学校5年、田淵友喜君が書いた作文の朗読などもあった。(中村直人)

◎幕末の西郷隆盛の活躍について話す桐野作人さん ◎西郷隆盛と島津久光の思想について語る粒山樹さん ◎鹿児島市のサンエールかごしま

○鹿児島では歴史の記事の掲載やや講演会が毎日のようにあって、嬉しい限りです。
今後も、勉学？ に励みましょう。 隈元

○2月8日

早速の引き受けありがとうございます。

私は、敗戦直後に朝鮮から引き揚げ鹿児島駅から、市役所と山形屋が見えたのをおぼろげながら憶えています。

朝鮮には半年程度しかいませんでした以前、あなたに書きましたが、朝鮮に行く前、鹿児島にいたとき桜島の前で、ロッキードかなんかの双胴戦闘機と日本の戦闘機の空中戦を見ました。

その他にもいろいろありますが追々としましょう。 西山 和宏

○早速の引き受けありがとうございます。

私は、敗戦直後に朝鮮から引き揚げ鹿児島駅から、市役所と山形屋が見えたのをおぼろげながら憶えています。

朝鮮には半年程度しかいませんでした以前、あなたに書きましたが、朝鮮に行く前、鹿児島にいたとき桜島の前で、ロッキードかなんかの双胴戦闘機と本の戦闘機の空中戦を見ました。

その他にもいろいろありますが追々としましょう。

西山 和宏

○鹿児島駅も立て直しとのこと 昔、吉田茂が鹿児島に来たとき警官が駅前の群衆にもまれて拳銃を奪われたことがありました。

それを契機に拳銃に紐を着けたのかもしれませんが。

西山 和宏

日曜日 本 楽行 厚刊 第3種郵便物認可

ト@鹿児島都市圏

JR鹿児島駅5代目駅舎開業

JR鹿児島駅（鹿児島市浜町）の5代目駅舎が完成し、15日開業した。大正時代の2代目の外観をモチーフにしたレトロなデザインが特徴。エレベーター3基を備え、バリアフリーにも配慮した。昨年4月から建て替える事が進められていた。

新駅舎は鉄骨2階建て、延べ床面積665平方メートルで、外壁の一部に溶結凝灰岩を採用。正面入り口から階へつなぐ階段は、吹き抜けの天井が美しいアーチを描く。改札口は2階にあり、エレベーターは駅正面入り口に15人乗り1基、各ホームの通路に11人乗りが2基ある。男女トイレには障

摩切子を各1個展示し、壁紙も切り模様にした。待合室にはコインロッカーのほか、新池坊鹿児島支部の生け花も展示してある。

同駅の2018年度利用者は、1日平均1597人。西村隆志市長（59）はフレハブ駅舎で約1年間不慣れな思いをさせたが、新駅舎がようやく完成した。市民に親しまれる上町地区の新拠点となればと期待する。

駅周辺では今後、鹿児島市が22年春の完成を目指し、駅前広場のための周辺整備を進める。1年後には、線路をまたいで向かいの市道と結ぶ自由通路も完成する。（桑元伸一）

レトロ調外観
バリアフリー配慮

アーチの吹き抜け天井、ガラス壁の壁面越しに市街地が見える

開業したJR鹿児島駅の5代目新駅舎。15日、鹿児島市浜町

写真部・山崎卓世

7代目の鹿児島駅伝走大会が、区間58.4キロを走る。道も熱気に包まれ、レースに慣れた目。大会が始まるまで、一枚一枚、車内から狙った、中継所で

真新しい改札口付近。手前右は待合室

障切子が展示された男子トイレ入り口

○

○随分と綺麗になったようですがいかにも小振りな印象はいなめません。

なにやらローカル駅の感じレトロ感が時代の発展から少し取り残されたを思わせませす。

どこの都市でも概ね東から西へ発展しその中央に川があれば、それを越えて西に広がっているようです。

記事には 2818 年度、1 日平均利用客は 1,597 人とありました。

ネットで見るとデータ収集日は不明ですが

<https://storestrategy.jp/?category=1&area=&pref=47&order=D7>

鹿児島駅の 1 日乗降客

1 位	鹿児島中央駅	鹿児島本線	34,634
2 位	坂之上駅	指宿枕崎線	6,652
3 位	伊集院駅	鹿児島本線	6,116
4 位	谷山駅	指宿枕崎線	5,752
5 位	国分駅	日豊本線	5,253
6 位	鹿児島駅	鹿児島本線	4,888

因みに鹿児島には 84 駅あり、最下位は竜ヶ水駅 2 人

乗降客数は、当然ながら駅周辺の人口を反映しているようです。

乗降客数で谷山駅が鹿児島駅よりも上位にありましたが、郡元駅の周辺人口は鹿児島中央駅に次いで谷山駅よりも上です。

その昔、郡元には、刑場があり、別れを惜しむ泪橋がありました。郡元は、それほどの町はずれでした。

あれから半世紀以上、大きく変わるものです。

西山 和宏

○大石です。

情報ありがとうございます。

悲しい数字ですね。磯駅が近く？出来ます。乗降客 2 位なんてことになるかも、鹿児島駅よりは多いと思う。レトロ調とは、仰るとおりですね。そこそこでいいような気がします。なくなりさえしなければ。

○「なくなりさえしなければ」とは達観の境地。

磯駅ですか。昔は入場料はなく、貸席までしていたのにしいた建造物を作らなければよいのですが

西山 和宏

○西山さん

こんばんは

珍しい 資料 見せてもらいました。

鹿児島中央駅 以外に 乗降客 少ない感じですね。

ちなみに 我が 生駒市 人口 12 万人 近鉄生駒駅 利用者 47,700 人 大阪のベットタウンとして 成り立っているのでしょうか？

近鉄 奈良沿線 学園前駅も 56,257 人 多いです。ここも ベットタウン の位置づけです。

鹿児島は 人口 60 万 単純に 比較できないようです。ありがとうございました。木場 祥雄

○ご無沙汰しています。

転送した文章は、次の「楠声会会報」に掲載のため、私の書いている「ブログ」について書いてくれとの依頼があり、書いたものです。ご笑覧ください。

隈元

○池山さん

いつもお世話いただきありがとうございます。

先日の石谷小学校の演奏会は、久しぶりで楽しく歌うことができました。

さてご依頼の「ブログ」についての拙文、一応書いてみました。文字数は、他の人に見習ったつもりですが、段落もつけず目いっぱい書いています。編集の都合上、問題があれば、お任せしますので、切って捨てるなり、言葉を変えるなり、料理してください。 隈元 達雄

○迷走！ 迷走！ 私のブログ

S37卒 T1 隈元 達雄

「ジージの南からの便り」が拙ブログのタイトルである。そのブログは、今回振り返ってみると書き始めていつの間にか13年近くになっていた。

休み休み、試行錯誤しながら、迷走に迷走を重ねて、遂に前年の12月末に1100回に到達した。

正直言っても好きで、好奇心の強い私が大した覚悟も信念もなく、気まぐれで始めたものだった。

2008年の4月に始めているが、当時、それまでの鹿児島での親会社との共同経営から退き、親会社に復帰する形で、監査室勤務となり、鹿児島在住のまま九州管内の関連会社の監査を一手に引き受けていた時代である。

週3日くらいの勤務で、パソコンで次の監査先の、売掛金などの精査をし、月に一回臨店ため訪問し、3泊4日くらいで監査をするという比較的ゆったりした勤務状況であった。

この頃は、市民農園を借りたり、近所の仲間たちとグラウンドゴルフを始めたり、これからの第二の人生を模索していた時である。

そういう中で始めたブログは、日常の瑣事を書き綴ることが多かった。

しかし、ブログを始めてちょうど1年少し過ぎた2009年5月、銀行勤務から始まった47年2ヶ月の会社生活が全て終わってしまうのである。

ときに69歳と5ヶ月の齢を重ねていた。

そのあと、70歳では、それまでの楠声会の本部会計も終えて、気持ちにも余裕ができてきた。それから2年くらい経って、もともと好きだった鹿児島の歴史を改めて知ろうと思い史跡の探索を始めた。

初めは私の住む武岡周辺の武町や田上、常磐、小野などの史跡などを巡っていたが、母校である清水中にあったと言われる清水城跡、これも母校の玉龍高校の裏山にある福昌寺跡の島津家墓地など市内一円の史跡を訪ねるようになった。

次第に足を伸ばして県内の山の中に分け入ったりして古い石造物や墓標を探して自分で写した写真と共にブログに書くようになっていった。

私は、楽天ブログを使っているが、当初はカテゴリの分類も無く、途中でカテゴリが導入されるなど、13年の間には、幾多の書式変更など変遷を経て、今日のスタイルに落ち着いている。拙ブログのカテゴリは、現在一番多いのは「未分類」の302件であるが、これは分類の項目がなかった頃の名残であり、不精者の私が、未だ

にその分類を怠っている証である。

多い方では「鹿児島県の歴史」267件、「つれづれ」115件、「旅行・ドライブ」97件、「男声合唱」64件などである。

「鹿児島県の歴史」の他に「西郷隆盛」と「島津一族」などの項目をつくったのは、NHKの大河ドラマ「西郷どん」や南日本新聞の年間連載記事「島津義弘没後400年」に依るもので、高校の同期生の歴史好きで「玉龍八期歴史会往来」を主宰し、メーリングリスト化して、月に一回会報を出してくれるKくんの影響が大きい。

私もそれには積極的に参加して、いろいろ書くようにしているが、シリーズとして書こうと思ったブログの方は、「西郷」も「島津」も完結には程遠いものがある。

話題は変わって、ブログを書いていると、「プロ友」というものができる。

それは、ブログの下に「コメント」を書き込む欄があって、同好の士が感想などを書き込むのだが、それが縁で、楠声会の第10回演奏会に東京から夏の帰郷をそれに合わせて帰ってきて聞いてくれた女性がいる。

鹿児島出身で小学生の子供2人を子育て中の女性である。

私とは一面識もないが、次の演奏会も心待ちしてくれているようである。

プロ友については、13年の間にはいろいろな出会やエピソードがある。

一緒に史跡を訪問したこともある30代のプロ友が「鹿児島古寺巡礼」という本を出版したのには驚いた

○隈元くんの書く文章は読み易いのがいいです。同期の他の人も一人の例外を除けばみなさんいい文を書きます。この文章も、書きたいことがいっぱいあるのが読みながらよく伝わってきます。最近、ある大学教授(嶋山由紀夫と東アジア共和論を唱える)の退官記念論表集にA41枚にメッセージ(お祝い文?)を頼まれました。本人も、著作集も読んだこともなく苦勞しました。僕の肩書(協会理事長という)に推薦メッセージが欲しかったのでは、と思いながらワード1枚に11フォントで送りました。スラスラ書き流した隈元くんの文章が羨ましい限りですよ。

明日、本田さんの講演会、何とか聴きに行きたいと思っています。

貴方にも会いたいし。

おおいし

○お褒めの言葉、ありがとうございます。

これだけにまとめるのには苦勞しました。最後が尻切れトンボになって少し気になります。

今、コーラスの練習から帰ってきました。

大石くんもいろいろなことに寄稿したりで大変ですね。

気持ちはよくわかります。だけど、「思うこと」などにも書いたベテランですから、大丈夫ですよ。

明日も冷えるのか、わかりませんが、がんばって伊敷に行きましょう。

○そうですね。

確かに最後に改行して、(追)1.2行おしまいらしく何か書いて、その分どこか2行くらい削除可能な箇所をカットするのも締まりがあるかもしれませんね。

僕も唯一「尻切れ」が気になりました。

○ありがとうございます。

ちょっと手を入れてみたいと思います。

クマモト

○僕も、それでは先の推薦文を転載してみましようかね。 大石

人を遺すは上なり (後藤新平のことは)

鹿児島市日中友好協会理事長

大石慶二

木村先生の『退職記念論集』の完成（発刊）おめでとうございます。

春からは沖縄に活動拠点を移されて東アジア共同体研究のために第二？の人生をスタートされるとのこと、かねてから木村教授を応援している者として喜ばしい限りです。

先生とは、お互いに支援している若い女子学生（平和学を極めるために中国上海の復旦大学院に2年間留学、その後も中国をホームとして平和学に励んでいる）を通してお近づきになりました。

実は平和という言葉は子供でも知っている言葉ですが改めて大学や社会で学問として科学的に究めるものとは恥ずかしながら知りませんでした。その若い女子学生のリスペクトされる恩師ともいえる人物が木村 朗先生でした。

彼女の2年間におよぶ留学生活の日記をネットを通してリアルタイムに読ませてもらう中で度々文中に登場する平和学者・木村 朗の存在はわたしの中で「もっと、知ってみたい人物」の一人になりました。

先生の研究されている東アジア共同体というものに対しては実は勉強不足で正直なところよく理解しておりませんので賛同も共鳴も今のところ至ってはいません。

先生が出版されている多くの著書や、ネット（ユーチューブ動画も含め）でのコメント、そして、東アジア共同体研究の相方ともいべき鳩山由紀夫（元総理）との対談・共著などもひと通り（の段階ですが）学ばせていただきました。

一度だけ先生と会食しながらお話を聞かせていただきましたが、その時は東アジア共同体のお話より、先の大戦の終末、日本の無条件降伏前後の、日米間のやり取り、それに絡むロシアの参戦や原子爆弾の投下の真実は？のお話の方がとても興味深く残っています。

今回研修赴任された韓国釜山大学での半年間のご研究を通してライフワークである東アジア共同体の更なる勉学を深められたことと思われまふ。又多くの現地の韓国学生たちとの交流やディスカッションを通して中で構想に拍車がかかったことでしょう。

ともあれ先の戦争で日本（本土）の犠牲になりながらあれから75年経つ現在、未だ真の平和を取り戻したとは言えない沖縄に腰を下ろし、これからの人生を『沖縄から、日本と、東アジアの人権・平和を問う』という先生の真摯な生き方、その姿勢は尊敬したいしエールを送らせていただきたい。

新たなフィールドでは先生の唱える真の平和学を通して、多くの沖縄の若い優秀な青年たちが学び、その中から、沖縄の為に、日本の為に、かつて中国に飛んだ若い女子学生のような木村教授ファンが現れることを期待します。

……………編集部(管理人)より。

これを、機会に、皆さんからの『書き物・エッセイ・評論。思うこと』など投稿してみませんか？55周年の『記念誌』のようなものを載せませんか？？

○2月10日

今日は「伊敷歴史研究会」で久々に会えて楽しい時間を過ごすことができました。感謝です。

> 先ほど、講師の本田哲郎さんからお礼の電話がありました。「大石さんとは話が出来たが、あなたとは話せなかったで…」とのことで、20分近くよもやま話をしていました。大石さんにもよろしくお伝えくださいとのことでした。クマモト

○家に帰って早速復習することでした。

上井覚兼(日記)について「その当時の行動や人柄」など興味があります。

本田哲郎さんの上井覚兼論をお聞きしたい。

新名一仁氏のお話はネット上でざっと見ましたが本田さんのおっしゃるように上井日記が100%信じられない、とすれば...興味が湧きます。

下にショート動画作りました。

--○本田 哲郎さま

○今日は「島津豊久」の生涯にわたる講演ありがとうございました。

本田さんの体調不良をものともせず、永吉島津家に懸けられる情熱にはいつも感嘆しています。

私も、帰って復讐することでした。

また、早速丁寧なお電話までいただき恐縮しました。

大石くんの動画はいいですねえ。

宮崎行の計画も近々、案を作成してメールでご相談しようと思っています。

ぜひ、ご助言をください。

最後になりましたが、あまり無理をしないようにしてお過ごしください。

隈元 達雄

○大石 慶二 様

今日は、早朝からお越しいただき、まことにありがとうございました。

拙い、歴史家でもない者の話をきいていただけだけでも、嬉しいことでした。

また、素早く動画にしてください、これもびっくりでした。

自分の声や動作をこのように見れたこと、感激でした。 ありがとう！！

貴兄の、いつものレポートも、あれほど細かく、また丁寧に編集されていて、

仲間に方々からも貴重でなくてはならない存在であること、皆さん感謝されている

いますね?! 小生まで配信いただき、まことに嬉しく拝読しています。

早速j、復習されておられるとj由、さすがですね?!

今日の、上井覚兼日記についての件ですが、あれは「例」としてお話申し上げたことであって、

必ずしも、彼の「日記」を怪しからんと申し上げたことではなくて、一次資料とか二次資料とかで

差別をつけるには如何なるものか? むしろ、その、書き手のおかれた立場等が

どのような状況であったかを冷静にみながら、判断すべきであると申し上げた次第です・

一次資料でも二次資料でも、はっきりとした判断の基準は、自分がその場にいたとして、

どのようにこの事案を見るか?、さらに、管理者の立場で在れば、どのように解釈し、判断するかを

見るべきであると申し上げた次第です。

例えば、島津家久の急死の謎は、いかなる理由で急死に至ったのかの事案の詳細を検討しつつ、

一次資料や二次資料のどの部分を自分はその根拠に、自分なりの結論を見出すのかが、

問題であるとの認識であります。

一次資料、二次資料の区別ではなく、どこにおその真実があるかを冷静に判断すべきである

そのことが歴史を正しく理解するに必要であると思います。

卒直なご感想を聴かせていただきたいと存じます。

また、佐土原への歴史探訪を企画されておられるようです。 あちらには詳しいガイドや歴史愛好家が

多くいますので、紹介できます。 何なりと問い合わせください。 お待ちしています。

20230, 2, 10、 本田 哲郎

○ひとの言動をそのままその人の本音だと、してはならない。たとえ、その日の状況記録や感想として「本人が言っているのだから」と信じていいものか？...一例として上井覚兼日記にしても...そういうことですね。確かに考古学者の大発見にしても然りですね。本田さんのおっしゃることはよく分かります。「どうなっていたのだろうか？」を解説してくれる方々のお話を聞いて(なるほどそういう見方もあるんだ!)と新しい発見が出来るのが講演会ですね。だから終わってからの質疑応答も聞いていて楽しいですね。本田さんは決してご自分で謙遜されるほど素人ではありませんので講演のとき言われなくてもいいのでは、と思いました。 大石ケイジ iPhone から送信

2020/02/11 0:38、本田 哲郎 <t15honda@ml.satsuma.ne.jp>のメール:

○本田さんの昨日の話も、メールもさすがですね。いろいろな本を読み込んだり、人の話を聞いて、それを取捨選択する能力を養わないと、自分の説も出てこないという風に解釈しました。まだまだ私は勉強が足りませんが、現在の段階は、知って喜ぶ段階なのでそれなりに楽しんでます。本田さんの境地までいくには時間がもうありません。(笑)

宮崎歴史探訪の旅は、楽しものになりそうですね。まとめてみます。午前中は、娘と孫二人が訪ねてきて、大騒ぎして昼を食べて先ほど帰って行きました。娘は週一くらいには訪ねてきますが、孫たちは正月以来でした。そのため、ブログを一本書いただけで、旅のことには掛かれませんでした。

○塩満さん担当「鹿児島風土記」日置伊集院編
ちょっと楽しみなシリーズが始まりました。
隈元くんの解説も載せていきたいと思います。

クマモト タツオ

○本当によか記事です
西郷さんが新政府要人の驕慢ぶりに愛想を尽かしたことが分かるような気がしました。
薩摩の人間は冗談が好きだと言いますが、西郷さんの冗談もタニシのシヨンベン田へしたもんだ!
西山 和宏

○今朝新聞を見て嬉しくなりました。
これについての解説は、本来、大石くんが適任と思うが、私もこの墓碑のある伊集院の「円通寺跡墓地」を以前訪ねたことがあるので写真とともに少しだけ、触れてみたい。
この筆者の 塩満郁夫さんは、元々、大石くんの知り合いで、森くんの家に伝わる踊郷の「戊辰の役軍記」(出軍道中日記)や「西南戦争始末記」などの資料調査のため、森くん宅にお見えになったことがある。そのとき、大石くんと私も同席させていただいたのである。
このとき今日も文中にも出てくる「松崎勘助貞範の御軍令」などを書いた著書をいただいた。

今日の文章の中で西郷が約束通り本田兄弟の墓碑を建てたことやその際、石工に話したという逸話には、大西郷の人間的な面が表れていると思った。

私のブログを見ると、2014年5月16日に墓地訪問の記事をアップしている。ブログに書いたが、この墓地は探すのに大変な時間を要した。やっと訪ね当たった墓地は、残念ながら私がそれまでに訪ねた墓地の中でも、手入れがされていない最たるものの一つであった。

しかし、幸いにも本田兄弟の墓碑は添付の写真に見るとおり、きれいだった。「西郷隆永」という文字もはっきり読み取ることが出来る。



〇めずらしく新聞 2 頁にわたり「北前船寄港地フォーラム in 鹿児島」の特集記事が出ました。福田賢治(維新ふるさと館)始め 4 名のパネリストの方々はもちろん、コーディネーターに原口 泉氏そして基調講演①が磯田 道史というベストメンバー揃いの新聞記事が出ましたので掲載します。全紙を縮小掲載しますが拡大して読みづらい人(読みたい人)は個人的にクリアな紙面を送りますので申し出てください。

北前船の小説は司馬遼太郎『菜の花の沖』1 巻から 6 巻までの長編小説がおすすめです。とりわけ 1 巻から 4 巻くらいまで(文庫本だと前 2 冊??)単行本で読んだのでよく分かりませんが・・・大石

〇「北前船」については、歴史の時間に習ったか、テレビのドラマで見た記憶があるくらいで、ほとんど知識もありませんでした。

今朝、新聞の2面ぶち抜き記事を見て、2回読み返してやっと少しの理解が進んだくらいです。

薩摩は北前船の直接の寄港地ではなかったものの、記事によると新潟、大阪、長崎などをうまく利用して海外貿易などに励んだのですね。いやいや、勉強不足そのものです。

隈元 達雄

○北前船、冒険とロマン、そして大きな財をもたらしのでしょう。

日本海側は危険が多かった。

海の難所は太平洋側に多い。

その昔、日本海側が表であったとも言われている。

海上の距離は陸上の10分の1と言われていたので船なら薩摩も沖縄もそれほど遠隔地はなかったのでしょう。

さて、記事の末尾に山形屋とあった。

その出身地の山形では、今年1月27日、山形県内唯一の百貨店「大沼」が自己破産を申請して320年の歴史を閉じた。

西山 和宏

○「菜の花の沖」はテレビの舞台中継だったか、ドラマだったかで少しだけ見た記憶があるくらいです。

未だ、西郷や島津のことを調べたり、読んだり、ブログにしたりで精一杯の状況でウロウロしています。

暇ができればぜひ読みたいのでそのときは貸してください。

先日、今回直木賞を獲った川越宗一の「天地に燦たり」を買いましたが、未読です。

この本は2019年7月21日に元和5年(1619)7月21日に85歳で生涯を閉じた島津義弘に因み「シンポジウム戦国島津最前線」が新名一仁氏などが県民交流センターで開かれた時に紹介された本です。

その時、初めて川越宗一という名前も知りましたが紹介文は「2018年に朝鮮出兵と舞台にした『天地に燦たり』で第12回松本清張賞を受賞しデビュー。

島津の侍大将の物語」というものでした。(八期歴史会往来にも投稿済み)

そのときは、できれば読んで見たいとは思いましたが買わずじまいでした。ところが今回「熱源」で直木賞を獲ったことから俄然読みたくなって買いに行きました。「2020年1月30日 第2刷発行」で本屋に「熱源」と並んで大量に置かれていました。これから読みます。

クマモト タツオ

○2月22日 大石から・・・

今回は寺田屋事件の主演？(中心人物)有馬新七が伊集院出身ということで。

鹿児島の人には寺田屋事件(騒動とも言われる)といえば1862年の薩摩藩士の同士討ちをいうけど世間的？には4年後にあった坂本龍馬が伏見奉行に襲われた寺田屋事件の方が有名。

2年前僕も訪れたけど、ほとんどの見学者は二階の部屋(龍馬の掛け軸や龍馬関係の資料に埋れている)か、もしくは有名なお登勢の入っていた風呂場などが関心事のようだ。

鹿児島から来たけど有馬新七が「おいごと刺せ！」と橋口に言った場所はどこですか？と案内人の女性に尋ねたら「ここだと、いわれています」と教えてくれた。

正直なところ1階のこれだけのフロアで、あの凄惨事件の修羅場だったとは信じ難い気持ちだった。

○塩満先生の第2弾「有馬新七」が出ましたね。

有馬新七のことで私が思い出すのは、NHK大河ドラマ「翔ぶが如く」の寺田屋のシーンです。

俳優・内藤剛志扮する有馬新七が壮絶な死を遂げる場面は「おいごと刺せ」というセリフとともに忘れられないですね。

有馬新七については拙ブログで2018年6月6日に取り上げていますが、今日はその時の写真を再録します。



上の写真は南林寺墓地より移設されたという「有馬新七の墓」
右は同じ伊集院の護国神社にある「有馬新七碑」、これは
没後110年に町の有志により建立されたそうです。
なお、この護国神社のすぐ下の一見藪にしか見えない
中に先日の本田兄弟の墓碑(西郷隆盛が弔文を寄せた)
はありました。



○有馬新七、いいですね。大好きな人物の1人です
…………… 西山スピーチ

記事の末尾に「生誕の地碑は神之川沿いの坂木邸のと
ころにあったが、……」とある。

伊集院の郷土であった有馬新七の父四郎兵衛は坂木家の長男に生まれたが、城下士有馬家の養子になり坂木家の家督は弟の六郎に譲った。

六郎は新影流の名手で、学問の造詣は深く、時世眼もあったので誠忠組の面々から尊敬されていたという。

新七の父四郎兵衛は、少年のころから文武両道に優れ、中年の頃、島津家の姫君(郁子)が近衛忠熙に入興した時、付け人の1人として上京し、63歳で死ぬまで十余年の間京にいて近衛家に仕えた。父も叔父も剣の達人であった。

新七は19歳の時、江戸遊学の途次、京の父の許にしばらく滞在した。

21歳の時、京に来て、紹介する人があって梅田雲浜と親交を深めた。

新七には江戸藩邸で糾合方(学問所)の図書係や助教を務めるほどの学識もあった。

井伊直弼の安政の大獄が始まった安政5年、新七は西郷吉之助より2歳年長の34歳。

このころから政治的に活動に奔走するようになった。

安政5年7月、兵を率いて上京するはずの斉彬の死去で、失意のうちに薩摩に帰るとき、胸の内を

「朝廷(みかど)べに死ぬべき命ながらへて かへる旅路のいきどほろしも」と詠んだ。この長歌は戦争中に愛国百人一首に加えられていたそうです。

新七は安政6年1月27日薩摩着、そのとき吉之助は、すでに奄美大島に行っていた。

斉彬亡き後の薩摩の政治情勢の激変に、新七が憤ったことが、やがて寺田屋での激情行為をもたらした。西山 和宏

○勉強になります。新七の性格・心情了解



大石

○そろそろ寝ましょう！

西山 和宏 11時34分

○2月27日

大石さん こんにちは

コロナウィルス 流行ってきています。日本上陸後 どんなところから 流行ってきているのか 全くわかりません？

菌を 追い返すぐらいの 健康な体にしていなければ・・・と思っています。

お互いに 達者で 過ごしましょう！

ありがとうございました。 だんだん 住所録も 必要なくなってきました。 八十過ぎると 年賀状も やめようかな?という人が 増えてきているようです。

今年は 関西八期会も 寄合い ないようです。 コロナウィルスで ますます 遠ざかった感じします。 では また 木場 祥雄

○森くんからラインへ以下の写真が届きました。

待望の鶴丸城の御楼門の完成です。 おおいし



○誠に立派な御楼門

これで新しい名所ができて よかった！ 西山 和宏

○大石さん んにちは

立派な 桜門が 出来たようですね！

観光客 が どうなるのでしょうか？

情報 どうも ありがとうございます。

風邪、インフルエンザ、クロスウィルスに かからぬよう お互いに 注意しましょう！ 木場 祥雄

○

(編集後記)

2020・2月是世界中が「新型コロナウイルス」に 席卷された月でした。

まだまだどうなる事か昨日、突然！安倍総理が全国の 小・中・高校の臨時休校 2週間を決めました。

どうなる事かよく分かりませんね。マスコミは安倍総理に「国民 に向けた安倍総理自身の呼びかけ」を求めてかんかんがくがくです。総理の周りにいる伏魔殿(いつも官僚)が目の敵になります。果たしてそうなのでしょうか？ 真実は……。

今号の最後は 30名近い仲間が見ている『八期ライン』から いくつか転載しました。 また来月 再見！！ けいじ



